

**製品名: CEP57 ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab08668**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	50kDa

## 抗原情報

遺伝子名	CEP57
別名	CEP57; KIAA0092; TSP57; Centrosomal protein of 57 kDa; Cep57; FGF2-interacting protein; Testis-specific protein 57; Translokin
遺伝子 ID	9702.0
SwissProt ID	Q86XR8
免疫原	抗血清はヒト CEP57 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 241-290

## 背景

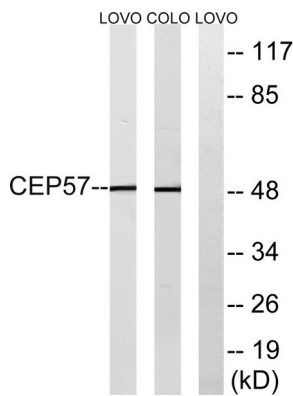
この遺伝子は、トランスロキンと呼ばれる細胞質タンパク質をコードしています。このタンパク質は中心体に局在し、微小管の安定

化に関与しています。このタンパク質の N 末端側は中心体への局在と多量体形成に必須であり、C 末端側は微小管の核形成、束形成、および中心体への固定に必須です。このタンパク質は、線維芽細胞増殖因子 2 (FGF2)、ソーティングネキシン 6、Ran 結合タンパク質 M、キネシン KIF3A および KIF3B と特異的に相互作用し、FGF2 の核移行および分裂促進活性を媒介します。また、サイクリン D1 とも相互作用し、静止細胞におけるサイクリン D1 の核質分布を制御します。このタンパク質は、細胞分裂中に正しい染色体数を維持するために不可欠です。この遺伝子の変異は、稀な常染色体劣性疾患であるモザイク型多様異数性症候群を引き起こす。多機能: 内在化成長因子 FGF2 の核移行および分裂促進活性を媒介する。類似性: トランスロキンファミリーに属する。細胞内局在: 微小管および中心体と関連する。サブユニット: ホモ二量体。FGF2 および RAP80 と相互作用する。FGF1 または FGF2 アイソフォーム 24 kDa とは相互作用しない。組織特異性: 普遍的。

## 研究分野

-

## 画像データ



COLO 細胞および LOVO 細胞のライセートを CEP57 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。